

2023年4月23日 復活節第三主日礼拝説教
「共に歩かれる救い主」(ルカ24章13～35節)

○ルカ24章13～24節について

神の御使いが、マグダラのマリアらに「あの方は、ここにはおられない。復活なされたのだ」(6節)と語った同じ日、よみがえられたイエスは、「エマオという村」(13節)へと歩きながら語りあう二人の弟子のところに来てくださった。

「(二人は)この一切の出来事について話し合っていた。」(14節)

☞彼らは、ルカ24章1～12、19～24節にある神の子イエスのご生涯と十字架、特に復活のことを論じていた。

今日のみことば：ルカ24章15節

「話し合^{はな}い論^あじ合^{ろん}っていると、イエス御自身^あが近づ^{ごじしん}いて来^{ちか}て、一緒^きに歩^{いっしょ}き始^{ある}められ^{はじ}た。」

「二人の目は遮られていて、イエスだとは分からなかった。」(16節)

*遮られる：強く閉じられる。(～することを)妨げる、避ける

○ルカ24章25～32節について

神の子イエスは、この二人が、マリアたちや他の弟子の話もよみがえりの〈みわざ〉も信じなかったので、彼らを諭され「モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された」(27節)。

☆三人がエマオに近づいた時、キリストは、二人と離れて村を通り過ぎ、さらに先へ向かおうとされていた。

①「一緒にお泊りください」(29節)の直訳は、「あなたがわたしたちと共に、とどまってください。」となる。

②「無理に引き止めた」：【原語】彼らが、彼に強く勧めた。

※食事の席で「イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった」(30節)とき、キリストの仕える御姿と働きを思い出した二人の眼と心が開かれた。